

令和7年度 中学生の「税についての作文」
緑納税貯蓄組合連合会 優秀賞



義務と関心と意見

桐蔭学園中等教育学校 第三学年 尾内 心

僕の母は税理士です。確定申告の時期になると毎日のように机に向かい、大量の書類を広げて計算している姿をよく見ました。その頃の僕は、それを見ても「難しい計算をする仕事」くらいにしか思っていませんでした。

ある日、小学校の社会科の授業で「税金の使い道を調べる」という宿題が出ました。初めは、税金といえば道路や学校をつくるためのお金だろうと漠然と考えていました。けれど資料を調べていくうちに、それだけではないことが分かってきました。例えば、災害で家を失った人のための支援や、病气やけがで働けない人を助ける仕組みなど、目に見えないところにも多くの税金が使われていると知りました。その時僕は、税金はただのお金の集まりではなく、社会の安心を支える土台のようなものだと感じました。

そのことを強く実感したのは、最寄り駅に向かう新しい通路ができた時です。以前は駅に行くには大通りの信号を渡る必要があり、朝の通学時には信号待ちで時間がかかっていました。雨の日は傘を差していても水しぶきがかかることや、暗い時間帯には車通りの多さが少し怖く感じられることがありました。

ところが、新しい通路が整備されてから駅までがまっすべつながら、信号待ちがなくなりました。雨の日は屋根の下を通れるので靴や服が濡れることがなくなり、暗くなると照明のおかげで安全に歩けるようになりました。通るたびに、これは便利だなと思うだけでなく、こういう整備にも税金が使われているのかもしれないと思うようになりました。

僕は今まで、税金は国や地方が勝手に集めて使うものという、どこか他人事のような感覚を持っていました。しかし身近な場所の変化を通して、税金は自分の生活に直結していると実感しました。またいろいろ調べていく中で道路や施設の整備はもちろん、災害時の支援、子育てや高齢者の介護など、もし税金がなかったら困ることがあると知りました。

税金の役割は「自分のため」だけではありません。僕が使わないかもしれない施設や制度にも税金は使われていますが、それは必要としている誰かを支えるためです。顔も名前も知らない人のためにお金を出すというのは、不思議なようでいて、とても大事なことだと思います。社会全体が安心して暮らせるようにするためには、一人ひとりが負担を分け合う必要があるのだと理解できました。

また、税金の使い道には課題があることも知りました。無駄遣いや隠蔽などと批判される事例や、もっと必要な場所に回すべきではないかという意見があります。それでも、全く税金がなかったら学校も病院も道路も維持できません。

僕はまだたいした税金を納める立場ではありませんが、今からその仕組みや大切さを理解し、税金を納める責任とその使い道にも関心と意見を持つ大人になりたいです。

